

# 右会津川石積砂防堰堤補強対策

## ○砂防堰堤の概要

- 右会津川水系砂防計画の最下流に設置
- 着工完成は1954年（昭和29年）
- 貯砂量：15,000m<sup>3</sup>
- 構造：石積砂防堰堤（粗石CONと推定）
- 施設点検：2021.2.25（健全度評価：B）

本堤石積の一部欠損、側壁等に軽微な損傷が見られるが、直ちに機能低下に繋がるような変状は見られない  
砂防堰堤は満砂状態で河床は安定

- 和歌山県では、2018年（平成30年）の西日本豪雨により、他県において石積砂防堰堤が被災した事例を受け、石積砂防堰堤の補強対策を実施
- 補強対策に際しては、検討事例を参考にマニュアルを作成

## ○補強対策設計フローチャート

### ・現地踏査

- 流域概要
- 河川の状態
- 既設砂防設備の状況
- 堰堤周辺の状況



### ・基本事項決定

- 基礎地盤→ボーリング調査
- 対象流量の決定→ラシヨナル式
- 既設堰堤の評価→堤体ボーリング、現地踏査
- 現行基準による構造照査→砂防設備台帳、現地測量
- 安定計算→越流部、非越流部、袖部
- 土石流（支渓）に対する照査
- 歴史的評価



### ・施設設計検討（予備設計）

### ・施設設計検討（予備設計）

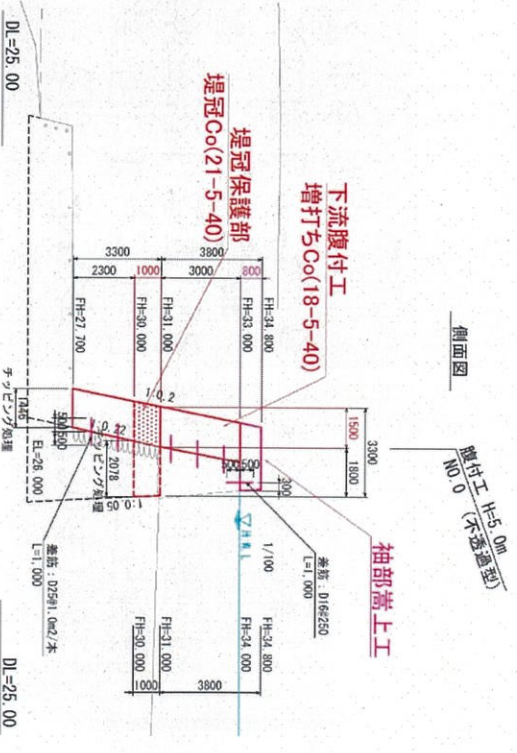
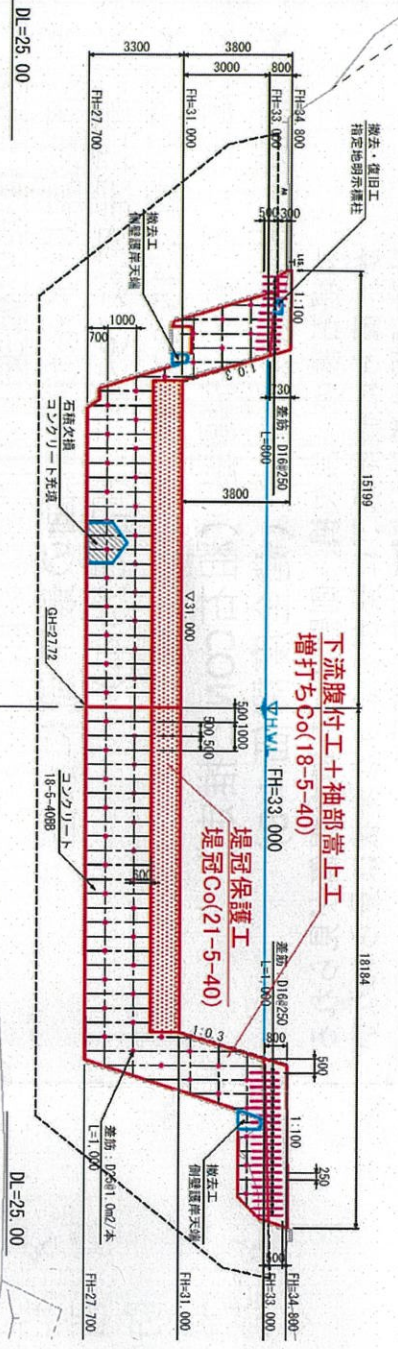
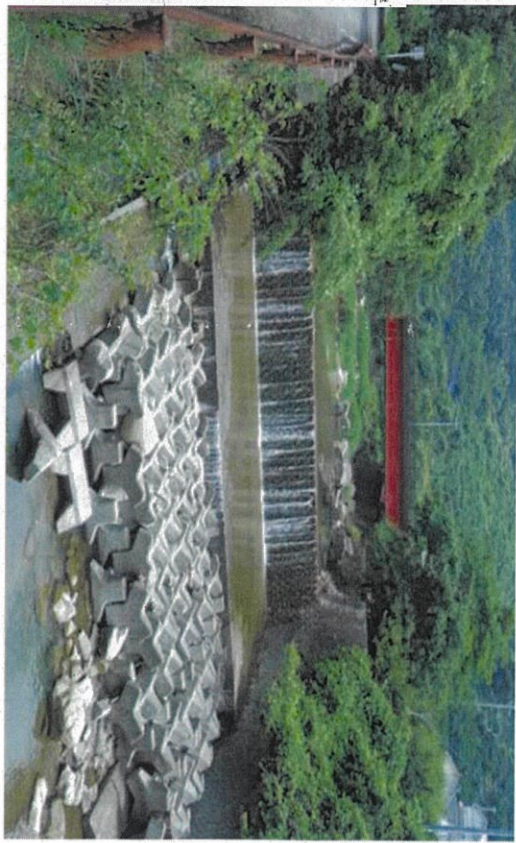
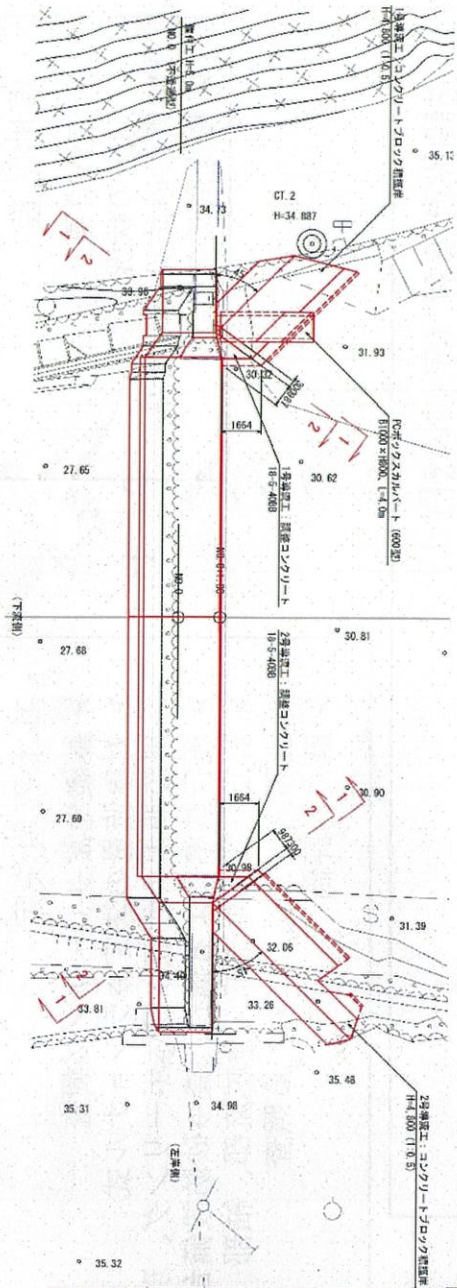
- 改築設計の基本方針→現行基準による安全性評価、現状機能を維持
- 本堤補強補修→計画流量に応じた水通し、腹付け補強
- 前庭保護工改築→新設（垂直壁が未設置のため）
- 段階的な補強対策→用地取得困難、道路の付け替え等が発生
- 対策基本方針→本川の洪水流（掃流）および右支渓からの土石流に対する安全性確保



### ・詳細設計（段階的補強対策）

- 原則本体工のみの対策
- 砂防堰堤→下流腹付け工を採用
- 堰堤水通し→堤冠保護工の設置
- 袖部→保護のための導流堤の設置
- 魚道→機能維持

# 右会津川石積砂防堰堤補強対策



側面図  
腹付工 H=5.0m  
NO.0 (不透透型)